

「大学博物館」を考える

2022年12月10日(土) 14:30~

開催方法：①対面 ②Zoomウェビナーによるリアルタイム配信

開催場所：①東京家政大学板橋キャンパス 120-2C講義室(120周年記念館2階)
②Zoomウェビナー

参加方法：事前登録制 当館HP「イベント」ページより登録を行ってください。
(https://www.tokyo-kasei.ac.jp/academics/museum/event/about_exhibition.html)



受付開始：2022年11月15日(火) 9:00 ~ (予定)

*各定員(①対面 100名 ②Zoom 500名)に達した時点で受付終了



14:15 開場

14:30 開会[開会の辞、趣旨説明]

14:40~15:20

第1部 基調講演

「『大学博物館』に期待すること」

講師：長崎 巖氏

(共立女子大学博物館館長・同大学家政学部教授)

15:20~15:50 3館の概要説明(各館10分程度)

16:00~16:40

第2部 パネルディスカッション

「大学博物館を考える」

登壇者：長崎 巖氏(共立女子大学博物館館長)

藤井 裕子氏(女子美術大学美術館学芸員)

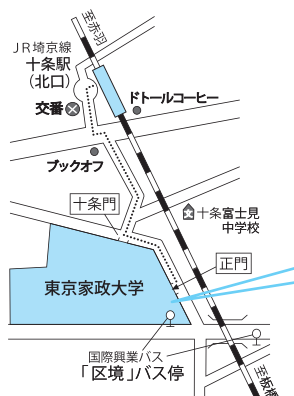
高橋 佐貴子(東京家政大学博物館副課長)

司会進行：手嶋 尚人(東京家政大学博物館館長)

16:40 質疑応答

17:00 閉会

*時間は前後する可能性があります



基調講演 講師プロフィール

ながさき いわお

長崎 巖

共立女子大学博物館館長・同大学家政学部教授

東京国立博物館の染織室長を経て、2002年より共立女子大学家政学部教授。

2016年に開館した共立女子大学博物館の館長を務める。

「Kimono Beauty」(2013年)、「ゆかた 浴衣 YUKATA」(2018-2021年)、「寿のきもの ジャパニーズ・ウェディング 日本の婚礼衣裳」(2021・2022)など、多くの展覧会を企画・監修。

当シンポジウムについて

基調講演では、染織史・服装史の研究・展示の第一線で長年にわたり活躍し続ける長崎氏に、20年間の国立博物館勤務や、共立女子大学博物館の構想段階から携わったご経験をもとに、「大学博物館」の独自性や、これからの「大学博物館」に期待することについて、お話をいただきます。

大学という教育機関に、なぜ「博物館・美術館」が存在するのか。パネルディスカッションでは、服飾関連資料を所蔵する3館の博物館・美術館の設立経緯や収蔵品の特色から、その意義について考えていきます。

開催中

令和4年度 後期コレクション展示 新収蔵資料紹介

谷中リボーン

2022.9.16(金) ~ 2023.2.6(月)

百周年記念館4階 常設展示室

10:00 ~ 16:30 (土曜日は12:00まで)

*シンポジウム当日は18:00まで開館延長